

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成21年9月8日(火)5校時
生徒 遠野市立青笹中学校 第1学年
男子16名、女子8人 計24人
授業者 吉田 亜矢子
共同研究者 矢吹 哲郎(遠野市立遠野北小学校)
齋藤 真希恵(遠野市立小友小学校)
西澤 孝司(遠野市立土淵中学校)

1 単元名 物語の読みを広げる

～自分の考えをしっかりとって、読書会に臨もう～
主教材；「麦わら帽子」(光村1年)

2 単元について

(1) 単元における主な言語活動 「読書会」
(=物語の内容や表現の仕方について考えを交流する)

(2) 単元で身につけさせたい言語能力

- ①文脈における語句の意味から心情を理解する力(「読むこと」ア)
- ②情景描写に注意して読み、内容を理解する力(「読むこと」ウ)
- ③自分の読みについて、考えを交流する力(「読むこと」オ)

(3) 生徒の実態について

- ①文脈における語句の意味から心情を理解する力
 - ・1学期に「にじの見える橋」において、はじめとおわりに使われている「足踏み」という語句に着目させ、その語句に込められた「少年」の心情の変化について読み取る学習を行った。
 - ・「足踏み」という語句を使った筆者の意図や表現の効果について考える学習は行わなかった。
- ②情景描写に注意して読み、内容を理解する力
 - ・NRT(21年4月実施)の結果から、文学的文章における情景描写のとらえや心情把握を苦手としている生徒が多いことが浮き彫りとなった。
 - ・「にじの見える橋」の中で、「雨」に関する情景描写が、「少年」の心情を表していることを学習した。この学習をもとに、自分の心情を情景描写によって書き表す活動を行った。
- ③自分の読みについて、考えを交流する力
 - ・筆者の書きぶりについて読んだり自分の考えをまとめたりする学習は初めてである。
 - ・教師の発問に対して、ペアや4人グループで話し合う活動は普段の授業でも行っているが、意見交換で終わっている様子が窺える。

(4) 教材について

①文脈における語句の意味から心情を理解する力

以下の二語について重点的に取り上げる。

| | はじめ(例) | 終わり(例) |
|------|---|--|
| 大いばり | 普段は田舎でかぶるにはおしゃれすぎる帽子を、理由があることで堂々とかぶることのできる喜び。 | カモメを助けた証であるおかしな帽子をかぶっている自信と自分を誇りに思う気持ち。 |
| まぶしい | マキ；気恥ずかしさがある。兄；外見上の大人びたマキが輝いて見える。気恥ずかしさもある。 | 内面的に成長したマキの輝きに対し、マキを危ない目に遭わせた自分の後ろめたさ。マキの心(成長)の輝き。 |

②情景描写に注意して読み、内容を理解する力

- ・ 事件場面の「海の描写」の効果を読み取る。

| 情景描写 | 作品中の効果(例) |
|--|--|
| 潮が満ち始める。 小島は海におぼれ始める。 海の冷たさがくるぶしから冷やしていった。 ひざからももまで、海がひたした。 海のおいが強くなる。 海がおへそまで上がってくる。 | 事件の予兆を暗示。 海面の上昇を大きくとらえることができる。 自分のこととして実感を伴う。 危機感が増していることが窺える。 心情的にも危機感が増してきている。 危機感がさらに増す。 |

③自分の読みについて、考えを交流する力（話し合いの視点を設ける）

問題① 「海の描写」のよさは何か。

【話し合いの視点】

- ア. 自分の気づいた描写と表している内容を出し合う。
- イ. それぞれの描写は、作品の中でどのような効果をあげているか。
- ウ. この事件は、作品の中でどんな役割を果たしているか。
⇒ 以上から、「海の描写」のよさは何か。（グループでまとめる）
キーワードを紙に書いて発表する。

問題② あなたがマキだったらどうするか。

【話し合いの視点】

- ア. 「口をきかず」と「口がきけず」はどう違うか。
- イ. マキは、なぜ「口をきかず」という行動をとったのか。
- ウ. マキの行動をどう思うか。
⇒ 以上から、自分だったらどうするか。
代表者が、グループの考えを紹介する。

問題③ なぜ、最初に使った「まぶしい」という言葉を、最後にも使ったと思うか。

【話し合いの視点】

- ア. 最後の「まぶしい」は、別の言葉で何と表現できるか。
- イ. 最後の「まぶしい」の意味は何か。理由。
⇒ 以上から、なぜ、最初に使った「まぶしい」という言葉を、最後にも使ったと思うか。（グループでまとめる）
キーワードを紙に書いて発表する。

問題④ 「麦わら帽子」で筆者が描きたかったものは何だと思うか。

【話し合いの視点】

- ア. 最初と最後で、マキはどのように変化しているか。
- イ. あんちゃから見て、マキはどのように見えたのか。
⇒ 以上から、筆者が描きたかったものは、何だと思うか。
（グループでまとめる）
キーワードを紙に書いて発表する。

* 学習課題と問題の関係については、学習課題を解決するために、その問題について考えるという立場をとった。

(5) 指導について

- ・ この単元の学習を通し、同一語句の文脈上の意味の違いが、主人公の心情の変化や主題へのつながりを持っていることを捉えさせたい。

- ・ 今まで経験していない作者の「書きぶり」と効果について注目させ、それに対する意見をもたせることで、物語を読むこと、思考を深めていくことの楽しさを実感させたい。
- ・ 心情や内容の読解のみの授業ではなく、作者の叙述の工夫が心情描写を支えていることに気づかせ、今までの狭い読解から、広い視野を持った読み方、より深い読解へとつなげていきたい。
- ・ 一部生徒の発言中心に進める教師主導による一斉授業ではなく、4人グループでの話し合いを中心に行うことで、一人ひとりが主体的に授業に参加させたい。

3 単元の目標と評価規準

| 観点 | 目標 | 評価規準 |
|----------------|--|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | 物語を読む楽しさを感じ、進んで読書しようとしている。 | 同一作者の他の物語にも興味を持ち、自分の好きな本を選書して読み、感想を簡単な文章に表している。 |
| 読む能力 | 言葉を手がかりにして文章を解釈し、自分なりの考えをまとめることができる。 | 場面展開や心情表現の工夫に注意しながら読み、その特徴について、自分の考えを述べている。 |
| 言語に関する知識・理解・技能 | はじめとおわりに出てくる「大いばり」「まぶしい」の文脈上の意味の違いを理解することができる。 | 文脈上における語句の意味を学習シートにまとめている。 |

4 単元の指導計画と評価計画

| 時 | 主な学習活動 | 評価規準 | | |
|---------|--|--------------------------------|--|---|
| | | 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
| 1 | ・単元の学習の見通しを持つ。 ・読書会のやり方と利点について捉える。 | ・単元目標を知り、意欲的に学習に取り組もうとしている。 | ・読書会の方法や利点を理解している。 | ・読書会の意味 |
| 2 | ・文中のキーワードを捉え、文脈上の意味に対する自分の考えをまとめる | ・キーワードに注目し、作品の内容を捉えようとしている。 | ・「まぶしい」「大いばり」の文脈上の意味を捉え、自分の考えをまとめている。 | ・まぶしい ・大いばり |
| 3 4 | ・1回目の読書会を行う。 問題①② ・問題③④について視点に沿って考えを書く。 (⇒残った場合、宿題) | ・読書会のやり方になれ積極的に活動に参加している。 | ・主人公の心情を捉え、自分だったらどうするかについて自分の体験をもとに発表している。 | ・情景描写 ・文末表現 ・場面構成 ・口を聞かず ・口を聞けず |
| 5 本時 | ・2回目の読書会を行う。 問題③④ | ・自分の意見を積極的に述べ、考えを深めようとしている。 | ・主題や心情・叙述の効果捉え、自分のものの見方考え方を広げている。 | ・麦わら帽子 ・まぶしい ・おしゃれ ・友情、成長 |
| 6 | ・単元の振り返りを行う。 ・同一作家の作品を読む。 | ・物語を読む楽しさを感じ、同一作家の作品を読もうとしている。 | ・読書会のよさを理解すると共に、目的をもって読書している。(簡単な感想を書くために) | ・簡単な感想文の書き方(=自分が取り上げたい内容) |

5 本時について

(1) 本時の目標

・「麦わら帽子」の内容や表現について、自分の読みを交流することができる。

(2) 本時の評価規準

| 観 点 | 学習活動における具体的評価規準 | 評価方法 | Bを実現していない学習者への手立て |
|----------------|--|----------------|---------------------------------|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・問題に関する自分の考えを積極的に発表したり、他の考えを聞こうとしたりしている。 | 観察 記述 | 観察し、学習が進んでいないグループに声をかけ、ヒントを与える。 |
| 読む能力 | ・文中の表現を根拠に、主題や心情、叙述の効果を捉え、お互いの考えを交流している。 | 発言 記述 観察 | グループ学習の中で、互いにお互いわからないことを質問させる。 |
| 言語に関する知識・理解・技能 | ・申し訳ない・ふかぶか・おしゃれ・友情、成長 | 観察 | 学習シートを確認させる。 |

(3) 本時の展開

| | 学習活動及び学習内容 | | 評価・留意事項等 |
|------------------|---|----|---|
| 導 入 8 分 | 1 学習計画の確認 | 2 | ・単元の学習計画表 |
| | 2 学習課題の確認 読書会を通して、自分の考えを交流しよう | 1 | |
| | 3 本時の学習の見通しを持つ。 | 5 | ・「時間配分」 ・「読書会のモデル」＝内容・形式（グループでの話し合い方、全体交流のときの発表の仕方） |
| 展 | 4 読書会を行う。 ・それぞれのグループ（4人）が、問題③④のうち一つを分担し、話し合う。 | 18 | ・グループ毎の問題は、事前に割り当てておく。 【グループ活動前の指示】 ①時間になったら、話し合いを打ち切ること、全体交流では、途中までも話し合いの様子を発表することを確認する。 ②困ったときは、挙手をして先生を呼ぶことを指示しておく。 【グループ活動中の支援】 ①話し合いがスムーズに進んでいないグループや話し合いが終わってしまったグループに対して支援する。 ②話し合いがスムーズに進んでいる場合は、どのような話し合いがなされているのかグループを観察する。 |
| | <p>【問題③】 <u>なぜ、最初に使った「まぶしい」という言葉を、最後にも使ったと思うか。</u></p> <p>ア. 最後の「まぶしい」は、別の言葉で何と表現できるか。</p> <p>イ. 最後の「まぶしい」の意味は何か。</p> <p> { <ul style="list-style-type: none"> ・同一語句に違う意味をもたせることで、マキの変化（成長）を表している。 ・同じ輝きをイメージさせる言葉で、外見上の輝きから、<u>内面の輝きへの変化</u>を表している。 ・物語の最初と最後に同じ言葉を使うことで、後半の言葉をより<u>強調</u>し、読者を<u>ひきつけて</u>いる。 </p> <p>【問題④】 <u>「麦わら帽子」で筆者が描きたかったものは何だと思うか。</u></p> <p>ア. 最初と最後で、マキはどのように変わっているか。</p> | | |

| | | | |
|------------------------------|---|----------------------------|---|
| <p>開</p> <p>32分</p> | <p>イ. あんちゃから見て、マキはどのように見えたのか。</p> <p>・マキの<u>成長</u>。最初は、麦わら帽子は、大人へのあこがれの象徴だったのが、この事件を乗り越えた自分自身の誇りの象徴となった。</p> <p>・大いばりでかぶっているのだから、マキ自身が、自分の行動に<u>自信</u>を持っていることを表している。</p> <p>・最後に「マキも麦わら帽子もカモメも」とあるので、マキとカモメの<u>友情</u>を表している。</p> <p>・おしゃれな帽子よりも、命を優先させたマキの心の成長を描いている。</p> <p>5 全体で交流し合う。</p> <p>① 代表者は発表の練習をグループでして、助言をもらう。</p> <p>② グループの話し合いについて代表が発表する。</p> | <p>2</p> <p>12</p> | <p>【問題を2つにした意図】</p> <p>「様々な視点からの読み」を経験させたいという願いから、グループ毎に考える問題を2つにしたが、問題③④は、この作品の主題を考えるという点でつながっている。</p> <p>よって、グループ毎の学習が学級全体の学習につながるものと考えた。</p> <p>・代表者を前に出して発表させる。(付けたし)</p> <p>・メモは取らせず、集中して聞かせる。</p> |
| <p>終</p> <p>末</p> <p>10分</p> | <p>6 学習の振り返り</p> <p>①今日の学習について個人でまとめる</p> <p>・問題に対する自分の考え、今日学んだこと。</p> <p>②自分のまとめを、ペアで発表しあう。</p> <p>③ 指名された生徒が全体で発表する。</p> | <p>5</p> <p>2</p> <p>3</p> | <p>・まとめられなくても <u>5分</u>で打ち切る。</p> <p>・観察により指名する。</p> |